



私事ですが、来春大学卒業予定の娘が就職のために奔走している姿を見て、改めて就職戦争という言葉が浮かんできました。数名の求人に対して何百人もの学生達が応募し、第1次、第2次、時には第3次と小論文や面接を重ねてその間ドシドシとふるいにかけられていくのだそうです。

学生主任 久保田 潔

最上の求人募集



その中でも無牧の教会が相当数あり、やむなく閉鎖せざるを得ない教会もあるとのことです。人口と比較した教会密度を見ると、16329人/教会(ちなみに韓国では783人/教会)です。教会数が少ないということは伝道者、牧師が少ないことを意味します。ですからキリストのために生涯を捧げて献身する者が求められているということです。しかし献身するということは隠棲して修道院で暮らすことではなく、伝道者、牧師という社会的にも有用な職について教会を形成し、多くの悩む人々を導く者になることであり、何よりも永遠の滅びに向かう人々への救済の仕事に従事することです。これ程生き甲斐、やり甲斐のある職は他にないのではないかと思います。



来年神学校を卒業して伝道の第一線に出る神学生は6名ですが、それを上回る献身者が必要です。今あなたが居る所で、神の声に耳を傾けて、神の言に応答することが出来るように祈り期待しています。そして何よりもキリスト御自身が期待され祈っておられるのです。

中央聖書神学校 入学案内

校長：菊山和夫
入学資格：高卒以上、召命の確信がある者
【本校願書締切日】2009年2月10日(火)
【本校入学試験日】2009年2月17日(火)
本校・関東分校・通信科：
〒170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20
TEL 03-3918-4925 / FAX 03-3918-4064
関西分校：〒663-8184 西宮市鳴尾町1-10-7
TEL/FAX 0798-41-4428
ホームページ <http://www.cbc-j.ac.jp/>

【神学校運営委員会】
6月7日、7月7日、8月5日、9月1日、10月6日
【開校記念講演会】
6月23日(講師・神戸ルーテル神学校教授 鍋谷堯爾)
【夏期教師研修会】
7月7日～9日(軽井沢)
【アジア太平洋神学協議会総会】
9月7日～12日(シンガポール)
【日本地区アジア神学協議会総会】
9月29日(神戸)
【神学校理事会】
6月24日～25日、8月28日～29日、9月8日～9日

学事往來

後援会入会のお願ひ

聖名を崇めます。
年の瀬を迎え、なにかと慌ただしさが増して参ります。けれども、私たちクリスチャンに取りましては、救い主をお迎えする喜びの時でもあります。
さて、その救いの喜びを伝える働き人の学びは、中央聖書神学校を中心になされますが、その働きが祝福されるために、次のことに目を向けて頂かなければなりません。
すなわち、献身者が次々に起こされること、神学校の必要が満たされることです。この働きを祈りと捧げ物をもって支える後援会会員を募集いたします。

後援会会長 多田 睦夫

後援会入会要請

個人会員 一口 年5千円
法人会員 一口 年1万円

*連絡は、中央聖書神学校
後援会宛にお願いいたします。

献金者一覧(2008年4月～9月)

― 一般献金 ―
【団体・教会】
関東北東教会
浜松北キリスト教会
伏木キリスト伝道所
水見キリスト教会
松任キリスト教会
敦賀宣教会
御影神愛キリスト教会
熊本聖書教会
純福音鯖江教会
大野キリスト恵み教会
【個人】
大坂太郎
松本春雄
― ダビデの石献金 ―
【関東北東教会】
狭山キリスト教会
中央福音教会
大島キリスト教会
【関西教会】
尾崎基督教会
鳴尾キリスト福音教会
【四国教会】
高知聖書教会
中村福音キリスト教会
【九州教会】
佐伯聖書キリスト教会

編集後記

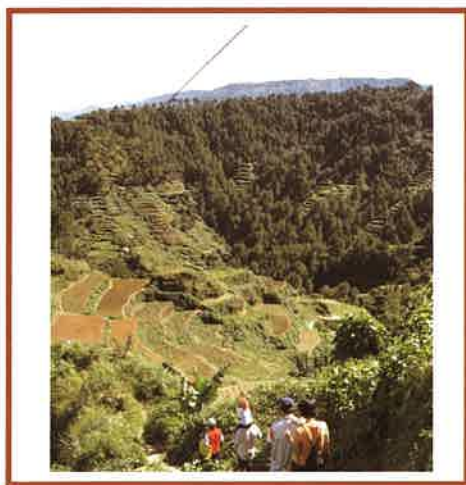
今期も皆様のお手元にCBCニュースをお届けできますことを主に感謝致します。CBCニュースは、神学校の先生方のご指導を頂きながら、神学生が紙面作りを行っています。内容にも体裁にも十分ではありますが、紙面を通して神学校と神学生の生の姿を知っていただくことを願っています。どうぞ、皆様を感じ取られたことをもって、神学校の祝福、神学生の成長のため、お祈りいただかせんでしうか。在校生、卒業生一同、これからもご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ致します。(横山唯一)

CBC NEWS
2008年 12月号

編集スタッフ 横山唯一 小石雅枝
毛利佐保
編集責任者 久保田 潔
事務局 中央聖書神学校

夏期派遣に行ってきました！

本年度7月から8月の夏期派遣期間に、13名の学生が、日本各地そしてフィリピンの教会へ派遣され、多くの恵み、学びを得ることができました。ご協力くださいました先生方、教会の皆様から感謝いたします！今回は、夏期派遣について、2名の証をご紹介します。



私は今年の7月の3週間、フィリピンのルソン島北部の山岳地帯にあるベンゲット州アバタンのアッセンブリー教会に実習のため行ってきました。教団の海外伝道部による派遣でもありますアバタンでは、結婚式での伝道説教、日曜礼拝の説教、訪問伝道、会堂建設工事などの体験をすることができました。現地語はイロカノ語ですが、私はフィリピンの共通語の一つである英語で会話しました。毎日楽しい経験でしたが、フィリピンにおける福音宣教の課題をも知ることができました。

フィリピン派遣の証

2年 横山唯一



また、フィリピンと日本の福音宣教を比較すると、相違点より共通点の方が多いことも知ることができました。フィリピンでも日本でも同様に、「時が良くて悪くても、みこころを宣べ伝える」ことが重要であり、すべてのクリスチャンに使命として与えられていることを再確認することができました。多くの兄弟姉妹のお祈りを頂いて、健康が守られたことも感謝でした。このフィリピン派遣で学んだ心得を今後の伝道牧会に生かして行きたいと思っています。

三木アガペー教会



初めての夏期派遣先は母教会でした。3か月ぶりに姉妹と共に礼拝できる幸いを喜び、姉妹との主にある交わりの中で、さらに深く愛され祈られていることを知り、感謝しました。トラクト配布に出かけると、何年も出会うことのなかった方や、日曜学校に来ている子どもたちの家族など沢山の知人に出会いました。その多くは、一度は教会に来たことのある方たちですが、その方たちがまだイエス様の救いを知らないことに心痛めました。今回の派遣は、「この地域を愛しておられるイエス様と、同じ思いがあるだろうか」と、自分自身の心を見つめる時となり、主によって与えられた人々との関係を感じ、献身の思いを新たにすることができました。

母教会への派遣

1年 森下真理子

外部伝道活動報告



聖学院伝道

3年 藤田豊樹

聖学院とCBCとのつながりは、上原和雄師(八王子基督教会)がCBC舎監時代に、聖学院の聖書研究会に出向いて教えた時から始まりました。

また、AGの教職の先生方の中には、聖学院出身の先生がたくさんおられます。

聖学院伝道は、中川寛先生(聖学院中高チャプレン)の了解の下、5年〜6年ほど前から自主活動として始まりました。千人収容可能な講堂をお借りして、主にライブ形式の集会(賛美、証、劇や説教など)を行っています。

今年は2月、6月、11月と集会の機会に恵まれ、高校2年生全員参加の礼拝で伝道集会の時間をいただく事ができました。どうぞ、この活動の為に祈り下さい。



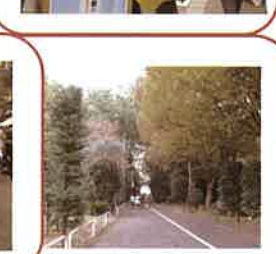
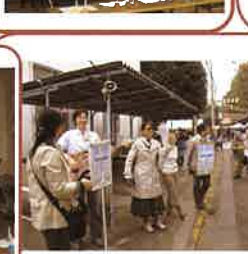
全生園伝道

2年 平松契

国立療養所多摩全生園は、全国に15箇所あるハンセン病療養所のひとつです。

ハンセン病は、現在確実に治癒できる病気として認識されていますが、時代の中でこの病気は強い感染力を持つ伝染病として恐れられてきました。日本においても「らい予防法」によって、全ての患者を終生療養所に隔離するという厳しい対策がとられ、多くの差別を受けてきた事実があります。

そういった中で、教団初期の徳木力先生を中心として始められた働きが、この全生園伝道です。こうして始められた働きを、私たちは今も受け継いでいます。現在は施設が主催する「全生園祭り」に参加して、毎年伝道集会を行っています。キリストの心を心とし、弱さの中にある人々にも福音が余すことなく伝えられることを願っています。



CBC News Interview Time

CBC を支えて下さっている先生方、スタッフの方々をご紹介しますページです。今回は、長年にわたり、CBC にて教鞭をとってこられた上原和雄先生と、学生たちの食事づくりのために、ご奉仕されている賄いスタッフ（昼食：小関常子さん＆千葉幸子さん、夕食：構美津子さん）の方々に、答えていただきました。

Interview



上原 和雄 先生

問：CBC での勤務期間と、主に担当された科目を教えてください。

答：今期で31年です。教会史、個人伝道法、キリスト教弁証論、牧会学概論などです。

問：30年に渡る教師生活の感想を教えてください。

答：最も長く教えた教会史を通して、学生とともに、人間の歴史から現代を生きる知恵を学ぶとること、福音宣教のあり方を学べたことが、財産となりました。

弁証論を通して、科学と信仰について更に踏み込んだ授業をしたかったということが心残りですが、30年にも渡り教えることができたのは、光栄なことであり、支えてくださった背後のお祈りのお蔭です。

問：これまでの教師生活の中で、特に心に残っていることは何ですか？

答：地方教区へのキャラバン伝道です。学生との時間が楽しかった。また、ある学生から、個人伝道法で学んだことを夏期実習ですぐに実践し、8人もの方を救いに導けたとの感謝の報告を聞き、「鉄は熱いうちに打て」だなと痛感しました。

問：今後の神学校に望むことは何ですか？

答：神学生には、起居を共にする牧師が必要であると感じています。今後、学校の制度として整えられていくことを願っています。

Interview



構 美津子さん

質問項目

- ①勤務年数
- ②印象に残っていること
- ③心がけていること
- ④この仕事のやりがい
- ⑤学生に一言お願いします！

Interview



小関常子さん (左) 千葉幸子さん (右)

質問項目

- ①勤務年数
- ②印象に残っていること
- ③心がけていること
- ④学生に一言お願いします！

①20年

②総会に参加する100名の先生方のお食事（朝・昼・夜）を作ったこと。神様の守りを日々感じてきたこと。

③時間に間に合うように料理し、出来立てを味わってもらう。体に良い、旬の食材を使うこと。

④学生たちと触れ合って、元気をもらえる。

⑤厨房で手伝った経験を将来に役立てて下さい。

①小関姉：8年 千葉姉：5年

②小関姉：仕事をしつつ、賛美の歌声やみことばに触れられることが嬉しく、いい職場だと感じた。千葉姉：仕事を始めた頃、「千葉さん、いただきます！」という声が嬉しかった。

③小関姉：メニュー編成。

千葉姉：神様第一で楽しく！

④小関姉：積極的に厳しいことに向き合っています。

千葉姉：後始末はきちんとしましょう。



Worship



中央聖書神学校 オープンキャンパス2008

イエスは彼らに言われた。
「来なさい。そうすればわかり
ます。」 (ヨハネ1:39)



Reception



Class

出席者合計

35名

(内訳)

参加者11名

神学生13名

教師8名

職員3名

2年 相原恵子

去る9月15日(祝)、11名の参加者を迎え、オープンキャンパスがもたれました。参加者は、模擬授業として、2科目(組織神学・込尾隆義師、個人伝道法・野川悦子師)を受講しました。

また、参加者一同共に礼拝を捧げ、すばらしい主の御名をほめたえしました(説教・菊山和夫師)。

午後からは、学校施設見学の後、昼食会の中で神学生企画のプログラムを通して神学校生活の様々な側面を見ていただきました。

参加者から「献身の思いが強くなりました。」「献身のためにさらに祈っていきます。」「積極的な意見が多く寄せられ、「来て見てよかったこと」があつたようです。

共に学び、共に仕える献身者がさらに起こされるようにと祈り、主に期待しています。

静心

2年 小石雅枝

私は、以前から涙もろかったが、神学校に入り涙の理由が増えた。

主の臨在に包まれて、涙。救われて欲しいと祈り求め、涙。自分の失敗、罪に対して、涙。励まされてまた、涙。振り返れば、涙の時に、また新しく主を知った。涙の時にまた新しい自分を知った。「雨降って地固まる」のごとく、涙の時が私の信仰を力づけ、神に召されているという確信を強めてきた。

そのことを覚えて、私はこれからも涙に素直でいたい。そして、「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣く」者として、歩んでいきたい。